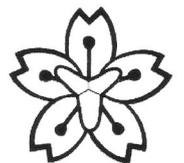


# 多摩消防団だより

創刊号  
発行  
平成18年2月吉日  
多摩消防団  
広報部



消防団のマーク



多摩消防団長  
松澤忠志

## 「広報誌発刊にあたり」

日頃より、消防団活動につきまして、各町会、自治会の皆様には、深いご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

この度、多摩消防団の広報誌の発刊により、地域の皆様に消防団がより身近な存在になれば幸いです。

昨年はお陰様で当多摩地区では大きな災害もなく、火災も一昨年より多少ですが少なくなり、これはひとえに地域の皆様方の防災に対するご理解の賜と心から感謝申し上げます。

ところで、昨年の叙勲におきまして、前団長井上昭一様が消防団活動に貢献された功績により、瑞寶雙光章の栄に浴されました。このことは井上様の榮譽にとどまらず、私たち多摩消防団員としましても誇りであり、心からお祝いを申し上げます。井上様の今後のご活躍とご健勝を心から祈り申し上げます。



多摩消防署長  
田中輝夫

## 「消防団だよりの創刊によせて」

多摩消防団だよりの創刊まことにおめでとうございます。昼夜を問わず火災をはじめとする災害活動に従事する消防団員の熱い思いが、消防団だよりを通じてメッセージとなって地域の方々に伝わり、消防団と地域住民のかけ橋になるものと存じます。

消防団員は、市民の生命・身体及び財産を災害から守るといふ崇高な使命感と郷土愛に燃え、防災活動の第一線に立つ身であります。この消防団員の様々な活動を通じての経験談や苦労話は、地域における防火・防災に大いに役立つものになると期待しています。

最後に、消防団だよりが多くの皆様のさらなる防火意識の高揚に寄与し、地域防災の礎となることを願うとともに、多摩消防団の今後の御発展と御活躍を祈念申し上げます。創刊にあたってのお祝いの言葉とさせていただきます。

## 災害に備える心でまちづくり

平成十八年多摩地区消防出初式



一月七日午後、多摩消防団と多摩消防署が主催した平成十八年多摩地区消防出初式が生田浄水場で盛大に開催されました。当日は、晴天に恵まれ消防関係者をはじめ多くの区民が来場しました。式典に続いて長尾子ども太鼓、カラーガード隊等の演技と一斉放水があり、華やかな出初式となりました。

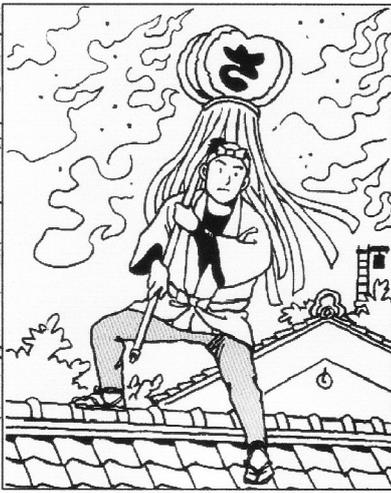
## 消防団とは

消防団は長い歴史と伝統に培われ郷土の防人（さきもり）として、水火災等の災害から、国民の生命・身体・財産を守るため、身を挺して防災活動に従事しております。

消防が組織化されたのは、江戸時代にさかのぼり、江戸城や武家屋敷重点の消防から町家、町内の「町火消」として南町奉行大岡越前守により「いろは」四十八組が作られたのが始まりです。

戦後、昭和22年勅令により「消防団令」が施行され、現在の「消防団」となりました。

地方公務員法第3条に特別職として明記され、消防組織法に消防団員の最高責任者は、市町村長で、組織の一切をとりしきり、その権限が消防団長に委ねられています。



消防団の祖先ー町火消（まちびけし）

郷土や住民を守る消防団員



消防団は、厳格な階級制度で全国統一されており、団長、副団長、分团长、副分团长、部長、班長、団員の7階級に分けられ、厳正な規律と秩序の維持が要求されています。

組織的には自治体消防となり、先に述べたように市町村長が消防を十分果たすべき責任と管理が規定されていることから、市町村長の下に消防団、その下に消防分団が置かれています。多摩区では1団2分団9班があり総員159名の団員が地域の防人として活動しています。

## 前多摩消防団長井上昭一氏叙勲 瑞寶雙光章

ずいほうそうこうしょう

平成十七年秋の叙勲において、井上昭一氏が永年の消防団活動の功績を認められ、瑞寶雙光章の榮譽に浴されました。誠にありがとうございます。



「叙勲にあたり」 井上昭一

多摩消防団発足以来初めての機関誌の発行を心からお慶び申し上げます。

さて不肖私儀、昨年三月三十一日で退団し、早や十一月、平成十七年秋、はからずも叙勲の榮に浴することができました。

これも偏に松澤団長さんを始め、団員の皆様、OBの方々、歴代の多摩消防署長さん、職員の皆様はもとより、関係各位のご指導、ご支援のお陰と心から厚く御礼申し上げます。

然しながら、私個人の叙勲でなくて、多摩消防団が一致団結しての活動に対する叙勲であったものと考えています。

十一月九日、日本消防協会会館において伝達式後、皇居に参内し、天皇家下から受賞者一同に、ねぎらいのお言葉をいただき、喜びを新たに致しました。

この感激を私の生涯の宝として、余生を全うしたいと思っております。

ふり返ってみますと、私が入団した昭和四十三年は高津消防団から稲田消防団として、分離独立した年で、初代団長は故人となられた、上原幸次郎氏でありました。

その後上原団長さんが退団され、浅学菲才の私が第二代団長に就任し、悔のない団活動に挺身できましたことを思いますと関係各位の皆様にご厚く御礼を申し上げます。

結びに当たり地域の安寧と多摩消防団が機関誌発行を機に活動がより一層活性化することを願ひ、併せて関係各位のご健勝をお祈り申し上げてお祝いの言葉とさせていただきます。

## 各分団の紹介



多摩消防団  
稲田分団  
分団長 三平 等

広報誌発刊に際して、稲田分団の紹介を致します。

地域的には菅、中野島、登戸、宿河原、堰、長尾の各町会です。分団、各班員全員で九十五名の構成で活動しております。

年間行事としては、火災予防運動、水防訓練、地域防災、花火警備、操法大会、総合訓練、消防出初式などに積極的に参加し真剣に取り組んでおります。火災の消火活動は勿論のこと、災害に対しても全力で取り組んでおります。また全分団員が普通救命講習会を受講し市民救命士になる他、毎月二回消防訓練を行っております。

消防団員は言うまでもなく、本業をもちながら、地域の人達の期待に応えるべく奉仕の精神を以て社会のために尽くすべく取り組んでおります。これからも御理解、御協力をお願い申し上げます。

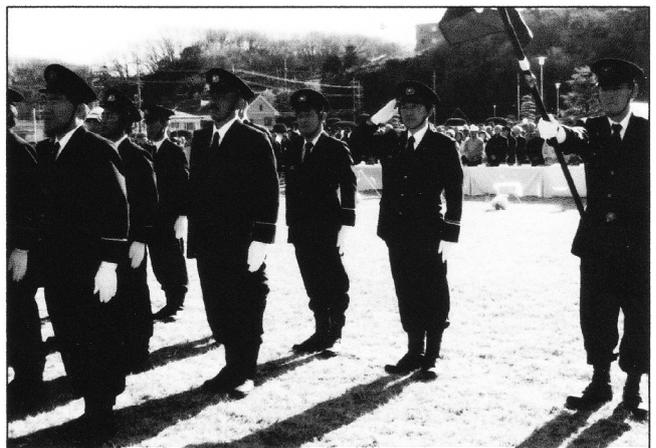
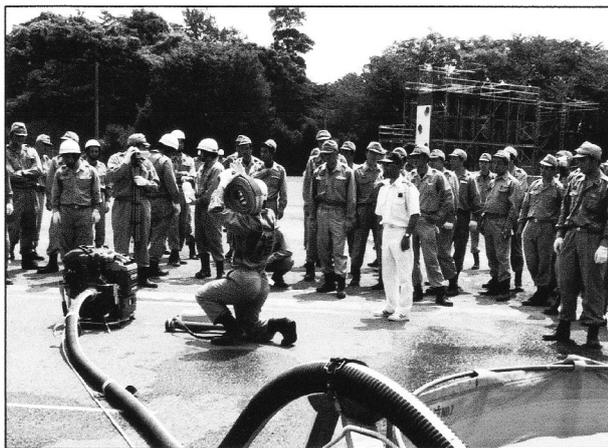


多摩消防団  
生田分団  
分団長 中山 浩

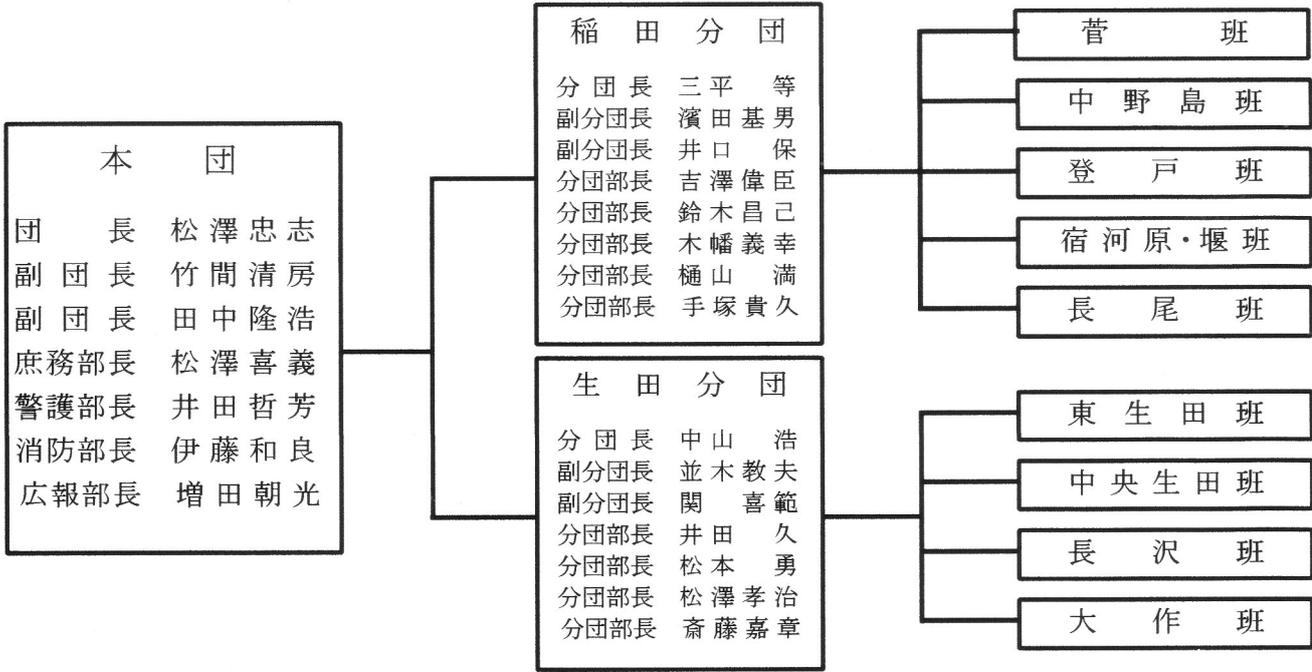
生田分団は、東生田班、中央生田班、大作班そして長沢班の四班構成で、団員が分団長以下、五十七名在籍しています。

近年生田地区は火災が少なく、偏に町会・自治会関係者の方々を始め、地域住民の皆様一人一人の防火・防災意識の賜と考えております。この状況に甘えることなく各班では班長の指揮の下、地域で災害が起こった場合に備え、迅速に行動が出来るように訓練を積んでいます。

多摩消防団は、皆様のお陰で団員の欠員がありません。が、全国的には消防団員数は減少傾向にあります。生田地区でも新入団員募集には、各班苦勞しているのが現状です。この広報誌を通して消防団活動にご理解を頂くと共に、団員経験者の増加に繋がるようにアピールして行きたいと考えています。分団員全員が、役立つ消防団員を目指して頑張りますので、ご指導の程よろしく申し上げます。



# 多摩消防団 組織図



## 多摩地区消防出初式受賞者 (敬称略)

|   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|--|
| <p><b>市長表彰</b></p> <p>永年勤続功労消防団員<br/>稲田分団副分団長 濱田基男<br/>稲田分団副分団長 井口保</p> <p>退職消防団員功労者<br/>元多摩消防団長 井上昭一<br/>元生田分団副分団長 松澤稔</p> | <p><b>県知事表彰</b></p> <p>永年勤続優良消防団員<br/>稲田分団分団長 三平等</p> | <p><b>多摩消防団長表彰</b></p> <p>勤務成績優秀消防団員<br/>稲田分団分団長 樋山満<br/>生田分団分団長 井田久</p> <p>勤務成績優良消防団員<br/>稲田分団 菅班 班員 白井正壽<br/>中野島班 班員 安藤聡<br/>登戸班 班員 浅谷武<br/>宿河原・堰班 班員 吉澤光宏<br/>長尾班 班員 小倉一浩<br/>中野昌彦</p> | <p><b>生田分団</b></p> <p>東生田班 班員 小金 亘<br/>中央生田班 班員 中山昭二<br/>大作班 班員 源 洋一<br/>長沢班 班員 山田浩治郎</p> <p>退職消防団員<br/>元消防団長 井上昭一<br/>元稲田分団 班員 川原泰左<br/>班員 井田聡志<br/>久保田博之<br/>上原誓児 田村良和<br/>関谷健一 関谷卓弘<br/>廣田光治 雨宮和夫<br/>石村靖彦 吉田 実<br/>齋藤基裕 井出正文</p> <p>元生田分団 副分団長 松澤 稔<br/>班長 北見哲男<br/>班員 井田秀雄 高橋利雄<br/>柳沼正勝 石垣浩司<br/>平野正人</p> | <p><b>多摩防火協会会長表彰</b></p> <p>消防功労部隊<br/>稲田分団 中野島班<br/>生田分団 東生田班</p> |
|---|---|---|---|--|

## 多摩消防団 広報部員の紹介



生田分団班長 (中央生田) 石川秀明  
生田分団部長 松本 勇  
本団広報部長 増田朝光  
稲田分団部長 手塚貴久  
稲田分団部長 樋山 満

### 編集後記

多摩消防団だより創刊号を無事発刊することができました。関係各位のご寄稿、ご協力に深く感謝致します。これからも多摩消防団だよりをよろしく願います。

多摩消防団広報部一同